1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　　月山　）

事業所番号	0670102128		
法人名	株式会社ジェイバック		
事業所名	グループホームもも太郎さん黄金		
所在地	山形市黄金81－1		
自己評価作成日	平成　22年　11月　24日	開設年月日	平成　18年　4月　1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）
（公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3―31		
訪問調査日	平成　22年　12月　10日	評価結果決定日	平成　22年　12月　28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族部屋が設けられ要介護者の方と自立している家族が一緒に暮らすことが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

どんな時も必ず利用者の立場を尊重し、常に寄り添い「笑顔」を絶やさず、一声声掛けを行なう事により、不安を取り除き、安心した生活を送り、「笑顔」が返ってくるような信頼関係に繋がっている事業所です。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1．ほぼ全ての利用者の
		○	2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1．ほぼ全ての家族と
			2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
			2．数日に1回程度
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1．大いに増えている
			2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1．ほぼ全ての職員が
			2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての家族等が
			2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念の他に事業所独自の理念を掲げ、朝全員で唱和するなどのことを行い日々 実践できるよう心がけている。	新人への取り組みとして、まず運営理念を理解してもらい、次に利用者に対しての関わりで一番大切な笑顔を保ち続けてほしい事、常に傾聴する場面を多くもつ等を少しずつわかりやすく説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地区の行事に参加したり、近隣の農家の方から野菜を購入している。また地域の理髪店の方に出張して来ていただき散髪していただいている。	運営推進会議の席上で、小学校のコーラスや中学校のボランティアサークルに声掛けてもらい来所がある。職員の子供達との関わりを含めて、利用者のすごい喜び、子供達の手を取り満面の笑みが見られる。地区の夏祭りに出掛けているが、今後は運動会の見学や、近辺のゴミ拾い等も継続的にやっていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の方と共に散歩に出かけるなどして、地域の方となじみの関係を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回実施し地域の民生委員や町内会長、包括支援センター職員や家族と現況の取り組みの報告や意見をうかがい、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議を通して、事業所を知ってもらいたいし、地域をもっと知りたいことを伝えている。定期的に開催しているが、防災訓練等に町内会長の参加があり、災害時に備え毛布等の準備を依頼している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所からの連絡や会議などは必ず参加し連携を図っている。特に生活保護の利用者の担当とは常に連絡を取っている。	困難事例を含めた相談や利用者の中で生活保護の方もおり、随時連絡を取り合い、良い協力関係が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。（夜間のみ）やむをえない身体拘束に関して（ベッド柵を真ん中にする等）は職員間で話し合い、また家族の了承をいただいている。	家族等の了解を得て、寝たきり利用者のベッドを居室の真ん中に配置し、関わりやすくしている。身体拘束の学習会の中でベッド柵や車椅子ブレーキ、職員の言動等に気をつけ共有し合いながら取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会等で高齢者虐待防止について学んでいる。また家族と利用者との関係に注意をはらい、家族への助言など行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会に金銭管理を行ってもらっている利用者がいる。また身寄りのない方について後見人の選定が必要かどうか話し合ったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約内容について十分に説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所の際家族に契約の説明を行っている。	法人全体の取り組みとして家族会立ち上げを検討しており、当事業所は3月頃に予定している。家族等との関係作りは定期的な面会に依り積極的な意見を聞く事が出来、また家族側の要望で数日間居室を共に過ごしてもらう等の配慮がある。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで意見をきく機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるような職場環境作りについては、それぞれの意見を聞いたり、職員会議において意見を聴取したりしている。給与水準や労働時間については本社との交渉となるが改善についての要望はしている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があるときはなるべく時間内で参加できるように図っている。また職員会議で勉強会を定期的に行っている。	定期的な勉強会では何でも話し合える雰囲気があり、かなり活発な意見交換の場となっている。職員の意識の変化も見られ、食事の介助の仕方や寄り添っての介護への工夫が見られる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会やスクラムチャレンジで行う研修会や勉強会に参加し、交換研修などを行い、情報交換しサービスの向上に努めている。	研修会等は順番で全員が参加出来るようにしており、交換研修も今月は数ヶ所からの依頼がある。相互訪問に依り、利用者への対応やレクリエーション等を含めた情報交換と、事業所全体の質向上を目指している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や入所後に本人の訴えをよく聞き、環境に慣れるよう援助を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に本人や家族の訴えをよく聞き、施設で出来ることや出来ないことなどはよく話して同意を得るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人や家族の訴えをよく聞き、施設で出来ることや出来ないことなどはよく話して同意を得るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の方々と共に暮らしているとして、言葉遣い尚に注意するように指導している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者よりお便りを送り、家族との絆は大切にしている。また日々面会にいらしたときは状況を報告したり、変化があったときは電話で報告している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に行っていた美容室に一緒に行くなどの支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しリビングのテーブルの配置や席順を配慮している。またその関係を良好にするため声掛けなどの支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了した後も面会に行くなど、これまでの関係性を大切にしながら必要な支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が本人のしたいことやしてほしいことを聞き出したり、家族から聞き出したり、検討したりしてアセスメントを行っている。	利用者を理解する為に、出来る事は見守りを基本としている。出来ない事への援助の為に、帰宅願望の強い方には、その都度連れ添って、気分転換も兼ねて近辺への散歩に出掛けたり、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族から状況を聞きだし支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時やフロアーミーティングなどで情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り時やフロアーミーティングなどやケースカンファレンスで情報をだし話し合い今後の介護計画に反映している。	家族等から、毎月来所毎に介護計画書に目を通してもらい、確認印の協力を依頼している。利用者で家族該当がない場合は、職員と共に確認してもらっている。日々、連絡帳をフル活用し全員で共有しながら介護計画の見直しと作成が出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は気づきや工夫を記録し、申し送り時やケースカンファレンスで情報を共有しながら介護計画に反映している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の農家の方から野菜を購入したり、理容店の方に出張してもらったりしている。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と本人の意向を尊重しながら医療機関を受診している。基本は家族対応だが、往診に来てくださる地域の医療機関があり、そちらに移管した利用者もいる。また遠方や家族の支援が受けられない方は職員が受診対応している。	利用者殆んどの主治医となっている協力医院からは、定期的な往診や、急変時には時間を問わず適切な対応をしてもらい、連携もうまくとれ、安心と信頼関係に繋がっている。歯科医院の往診もあり、受診結果はその都度家族に報告して情報の共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員は配置されておらず、同じ会社の他の施設の看護職員の意見や応援を求めることがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添い、情報提供している。また後ほど情報提供書を送っている。また入院中は定期的に面会し、退院の際は家族と医療機関との連携を行って退院後に速やかに施設生活に適応できるよう支援している。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の可能性がある場合は家族と相談し主治医と連携をとり施設で出来ることを説明している。また特別養護老人ホームへの入所を勧めたりしている。	現在、看護師がいなこと等を考慮し、事業所として対応出来ること、出来ないことを家族等と話し合っている。状況変化に応じて本人や家族等の意向を確認して方針の共有を図り、医療機関等と連携をとりながら支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に救急時の対応についての勉強会をしている。定期的な勉強会が今後必要と思われる。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の防災訓練を年2回実施している。夜間時の対応に重点をおいている。また運営推進会議でも地域の協力を求めていることを説明し、町内会長に立会いをお願いしたりしている。	利用者参加の避難訓練を実施し、火災報知器や水消火器等の使い方も指導を受けている。また職員の訓練を強化したいと考え、12月にも予定している。今年は訓練に町内会長の参加があったが、尚一層地域に協力を働きかけたいと考えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の認可区を尊重するような声かけや対応に努めている。	職員は自分がこんな事されたらどうだろうと常に自分自身に置き換えて考え、利用者本位の関わりを心掛けている。顔を見てゆっくりと話しかけ、言葉遣いに注意し、申し送り等も利用者のプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思表示ができない方などは本人の意思を検討している。なるべく本人の希望を聞くようにいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた時間を大切にし、その人の希望を取り入れながら支援にあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えや外出時の着替え、また行事参加時の着替えなど支援している。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いの出来る方には進んで行っていただいている。	職員が利用者の希望を参考にしながら、色取りと栄養バランスを考慮したメニューを一週間毎に交替で作成している。得意分野の手伝いもあり、一緒に調理したものを共に食卓を囲み、会話を交えながら楽しい食事となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない場合は食事摂取表を別に作り食事摂取や水分摂取について細かく記入し配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや援助を、その方の状況に合わせて援助している。		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄状況に合わせた排泄用品の使用や、排泄パターンを把握し失禁がないようトイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄を目標にし、習慣やパターンに応じて規則的な時間の声掛け誘導を実施している。介助をするときも1つ1つの行動に声掛けをして不安を取り除き、羞恥心やプライドを傷つけないような配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状況を排泄表から把握し下剤の調節を主治医と相談しながら行っている。また便通のためお茶の飲用を勧めている。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間などは現在決まっているが、利用者の希望に沿った時間や回数などの支援が必要と感じている。	熱め、ぬるめ、長風呂、個浴等一人ひとりの好みやこれまでの習慣に合わせた個別の入浴支援を実施している。湯に入ることへの抵抗感をもつ方にはタイミングや声掛け等を考慮しながら、入浴は楽しく、湯上りは気持ちの良いものだとわかってもらえるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の自由にしていただいている。フロアーのソファーで居眠りしたり、和室で横になることも出来る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供所を全員が閲覧できるようにしており、薬の変化があった場合は必ず申し送りを行い全員周知するようにしている。服薬の際飲み込みの悪い方はゼリーを使ったりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の嗜好や能力を把握し本人の楽しみごとが出来るよう支援している。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時、その都度とはいかないが、ご本人の希望を把握し希望に添える様努力をしている。	今年から新たに、利用者の誕生日に希望する外食を職員と出掛けることになり、楽しみごとの一つになっている。一日おきに行く食材の買い物に同行したり、また帰宅願望の強い方は気分転換に四季の変化を味わいながらドライブ等に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分でお金を管理している方はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方に関しては、電話、手紙のやり取りを実施して交流をはかっていただいている。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱がなく安心できる落ち着いた雰囲気を心がけている。	共用空間にはプライバシーに配慮して利用者の写真はあえて貼らないようにしており、ホールには担当職員による、月毎に季節の飾りつけがしてある。声や音で生活感を感じ、孤独にならないように、音楽を聴きたい人、好きなテレビを観たい人等、それぞれのペースで和気あいあいと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長いすを置くなど、またソファーや和室で対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が落ち着き、安心できるような物をなるべく多く持参していただいている。	事業所の特色の一つである家族部屋は広々として姉弟で利用したり、家族の面会時には団らんの場所となっている。窓からの風景が見えやすいようにベッドの位置を考慮したり、清潔感や室温に気を配り、その人らしく落ち着いて過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事の見極めをしっかりし、自立心を損ねない様な対応を心がけている。		